

## メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第二1:10~12 「パウロの祈り」

[10]「その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の——そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです——感嘆の的となられます」

「その日に」…主イエスが再び来られる時、世の終わりのさばきの時。その日、神を知ろうとしなかった人々、神の救いを受け入れようとしなかった人々を主はさばきをもって臨まれる。

しかし、救いの福音を信じ受け入れ、神に従っている人々は豊かな報い、永遠のいのちと安息が与えられる。

「ご自分の聖徒たち」と「信じたすべての者」は同じ意味。聖徒とは一点の欠けもなく聖い聖人という意味ではなく、聖なる神によって召され、イエス・キリストによって救われ、神の子とされたゆえの名称。テサロニケのクリスチャンたちも、もちろんこれに含まれる。

パウロたちがテサロニケで語ったイエス・キリストに対する証言、福音のことばはテサロニケ人たちに受け入れられ、信じられた。パウロは今、感慨を込めてそのことを思い起こしている。そして、主イエスが再び来られる日には、主は主を信じたすべての人々によって栄光を受け、感嘆の的となられるのである。

[11]「そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいように」

「そのためにも」とは世の終わりの神の正しいさばきの現れる日、また主イエス・キリストがすべてのクリスチャンたちによって、ほめたたえられる日のためにもという意味で、その時にクリスチャンたちが受ける豊かな報いと栄光にふさわしい者とされるようにとパウロは祈る。彼の祈りはいくつかの部分に分けられる。

①「私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし」…ここにはまずクリスチャンは神が召してくださった者という基本的な理解がある。そして次に神が召してくださった者をそれにふさわしい者としてくださるようにとの願いがある。→ピリピ1:6

②「善を慕うあらゆる願い」と「信仰の働き」とを全うしてくださるようには

「善を慕う…」とは悪ではなく、神のみこころにかなう善なるもの、良いことを慕い求める願い。→I ペテロ2:12~15、20~21、

「信仰の働き」とは信仰によってもたらされる働き。信仰は働きや行いを通して現わされる。→ヤコブ2:14~17

もちろんこれらは自力によって全うできることではなく、ここに書かれているように神の「御力」によって初めてできることである。それゆえパウロは、「どうか私たちの神が…御力によって…全うしてくださるようには」と祈るのである。

[12]「それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです」

ここにパウロの祈りの目的が展開される。

①「主イエスの御名があなたがたの間であがめられるため」…教会は主イエス・キリストの恵みによってこの地上で主イエスの御名をあがめるものとされる。主イエスの御名があがめられるのは主イエスの再臨の時だけではなく、テサロニケ人たちが具体的に11節で祈られているような生き方をこの地上でしていく時に現実の場で起こることである。

②「あなたがたも主にあって栄光を受けるため」…それは具体的にはこの世の人々から与えられる賛辞であり、主ご自身が与えてくださる栄光である。

またここで、はっきりと「私たちの神であり主である」とイエス・キリストの神性が描写されていることも覚えておかなければならない。

パウロがテサロニケ教会の人々のために祈ったことは、また私たちにも当てはまる。私たちも神の召しにこたえて、それにふさわしい者になりたい。善を行い、信仰の働きを全うすることができるように、そしてそれらを実行することができるように、主が恵みと御力を豊かに与えてくださるように祈りつつ信仰の歩みを進めていきたい。そのことによって主の御名があがめられ、教会も主にあって栄光を受けるようになるのである。